

助言を活用した支援・研修の在り方の研究、評価の定量化の研究

1. 事業の実施報告

(1) 実践研究のねらい

学校評価について有識者による専門的助言を活用し、学校の課題を解決するための必要な支援の在り方、学校評価の充実のための必要な研修の在り方についての実践研究を行うとともに、学校評価を基に、学校の教育活動の改善がどのように図られたか、定量的な測定の方法についての調査研究を行う。

(2) 実践研究の実施状況

ア 愛媛県教育委員会の取組

学校評価について、愛媛大学教育学部露口健司准教授の助言を得ながら、推進地域である四国中央市教育委員会と協力して、次の3点についての調査研究を行った。

① 学校の課題を解決するために必要な支援を行う仕組みづくりについての調査研究

- 学校評価運営委員会の設置
- 第三者評価の実施
- 学校評価コンサルテーションの実施

② 学校評価の充実のために必要な研修の在り方についての調査研究

③ 自己評価、学校関係者評価、第三者評価の結果を基に、学校の教育活動の改善がどのように図られたか、定量的な測定の方法についての調査研究

愛媛県学力診断調査〔児童生徒質問紙調査〕及び保護者集団構造分析モデル（愛媛大学教育学部露口健司准教授開発）の分析資料を基に、学校運営の改善の成果を定量的に測定し分析した。

イ 四国中央市教育委員会の取組

① 学校評価運営委員会の設置と取組

四国中央市内の学校評価の充実のため、学校評価運営委員会を組織し、学校訪問や意見聴取を行って、研究指定校及び研究協力校への指導助言を行った。

- 構成メンバー 教育委員会外部評価委員、校長会代表、教頭会代表、市PTA連合会役員、地域の学識経験者（計8名）
- 実施日 平成22年 7月 8日（木） 事業説明、委員会設置
平成22年11月15日（月） 三島小学校訪問、研究協議
平成22年11月22日（月） 川之江北中学校訪問、研究協議
平成23年 1月17日（月） 次年度の取組検討

② 第三者評価の実施

研究指定校、研究校において第三者評価を実施した。

- 実施形態 第1回（連続2日）と第2回（1日）を分離した学校訪問型
- 評価委員 愛媛大学准教授、県教育委員会指導主事、教育事務所教育指導課長、地域の有識者（計4名）
- 実施日 三島小学校 平成22年9月13日～14日

平成23年1月20日
川之江北中学校 平成22年10月4日～5日
平成23年2月9日

③ 学校評価コンサルテーション

学校評価が学校運営の改善に機能するよう、三島小学校において、自己評価、学校関係者評価、児童・保護者アンケート等の結果を基に、学校評価コンサルテーションを行った。

- 第1回実施日 平成22年 6月30日(水)
 - ・ 事業説明、平成21年度の学校評価結果の分析、今年度の計画
- 第2回実施日 平成22年 9月 2日(木)
 - ・ 1学期末の自己評価結果の分析、第1回学校関係者評価の結果の分析
- 第3回実施日 平成22年10月28日(木)
 - ・ 第1回第三者評価報告について(改善方策の具体化、焦点化)
- 第4回実施日 平成23年 2月10日(木)
 - ・ 2学期自己評価・第2回第三者評価・学校関係者評価結果の分析と効果的な活用
 - ・ 第2回第三者評価結果に基づく具体的な改善方策の策定
 - ・ 保護者アンケート結果等の分析と課題確認
 - ・ 次年度の学校運営の改善プランと取組策定

④ 研修会の実施

学校評価の充実を目指して3回の研修会を行い、露口健司准教授による講話や講演会を行った。

- 管理職研修会 平成22年7月26日(月)

学校評価の目的の再確認と、評価結果を各校の教育計画及びグランドデザインに関連付けている学校の取組を紹介した。また、信頼構築につながる学校関係者評価の在り方について講話を行った。
- 学校関係者評価委員研修会 平成22年9月10日(金)

四国中央市の全小中学校の学校関係者評価委員を対象とした研修と講演会を行った。
- 教務・研修主任研修会 平成23年2月7日(月)

平成22年度学校評価指導者養成研修の参加報告を行った。また、評価に焦点を当てた学校改善を目指すリーダーシップ実践について講話を行った。

ウ 研究指定校及び協力校の取組

研究指定校：四国中央市立三島小学校

研究協力校：四国中央市立川之江北中学校

- 教育計画及びグランドデザインとの関連性を視点に評価項目を見直し、学校運営の改善を図った。
- 有識者による専門的助言を基に、教育活動の改善に向けて実践研究を行った。
- 学校の教育活動の改善の成果を定量的に測定するための調査研究への協力を行った。

2. 実践研究の成果

(1) 学校の課題を解決するために必要な支援を行う仕組みづくりについての調査研究

ア 学校評価運営委員会の設置

近隣の学校が協力して互いの学校を評価する方法が、地域の学校間の連携を生み、それぞれの学校評価の充実につながることを確認された。また、研究指定校及び協力校における取組の成果を共有することができるなど、四国中央市全体の学校運営の活性化につながった。

イ 第三者評価の実施

学校内で課題として捉えていることと、客観的な視点から指摘された課題との重なりやずれが明らかになった。特に、学力向上については、教師一人一人の授業力の向上が求められることや、授業改善の必要性等、新たな課題が指摘された。

ウ 学校評価コンサルテーションの実施

チームでの学校訪問による第三者評価と併せて、有識者による学校評価コンサルテーションを行うことで、客観的な視点から改善への具体的な方策が示され、学校の教育力を高めることができた。特に、助言者によるアンケート結果の分析や専門的視点からの助言、さらには学校運営の改善の成果が定量的に測定され、数値で確認できたことが成果につながっている。

また、学校評価コンサルテーションは、自己評価や学校関係者評価の後に実施されることであるが、研究指定校では事前に実施したことで、教職員の学校評価に対する共通理解を図り、今年度の学校関係者評価の改善につなげることができた。

(2) 学校評価の充実のために必要な研修の在り方についての調査研究

各研修会の講話では、具体的な分析データを提示しながら、保護者や地域を巻き込んだ学校運営の改善の手だての例が示された。グランドデザインとの関連性を視野に入れた自己評価項目の設定、学校運営の改善に結び付く評価とするための配慮事項、専門的視野からの情報の分析と表現方法など、多くの学びがあった。

学校関係者評価の在り方を見直し、改善・充実させることにより、共感的な理解が得られること、学校のよき理解者、支援者が増えることなど、期待される効果は大きい。ともに考え、行動して学校をよりよい方向へ改善していくよう、意識を転換することの重要性が示唆された。

(3) 自己評価、学校関係者評価、第三者評価の結果を基に、学校の教育活動の改善がどのように図られたか、定量的な測定の方法についての調査研究

学校運営の改善の成果を定量的に測定する手法によって、学校の教育活動の改善がどのように図られたか、その成果を数値で確認することができる。さらに、多面的に分析することにより、質問紙だけでは見えない、それぞれの集団に属している保護者がどのように変容したかを見取ることができた。

学校評価の結果、愛媛県学力診断調査〔児童生徒質問紙調査〕、保護者集団構造分析モデル(P-TRUST)の結果を併せて定量的に測定し、評価結果を的確に分析することにより、学校評価の有用性や改善の成果を実感することができる。また、学校経営の課題を明確にして、学校、家庭・地域が一体となり具体的な手だてを講じて学校運営の改善に取り組むことができる。

3. 今後の取組予定

各校の自己評価項目の設定方法、評価結果やアンケート結果等の分析方法や表現方法の工夫・改善、学校関係者評価の在り方の見直し等を進め、学校評価の質の向上に努め、学校評価の更なる改善・充実を図る。

○よりよい学校づくりのために—学校運営の改善の検証—

I 評価に焦点を当てた学校改善の推進

—「労多く幸薄し」からの脱却—

愛媛大学教育学部准教授 露口 健司

II 学校評価における専門的助言の活用

- 1 これまでの経緯
- 2 研究の目的
- 3 研究の内容
- 4 実施日程
- 5 実施体制図

III 学校の課題解決のための仕組みづくり

- 1 学校運営の活性化を支援する学校評価運営委員会の設置
- 2 新たな気付きをもたらす第三者評価の実施
- 3 学校運営の改善方策をともに探る学校評価コンサルテーションの実施

IV 学校評価の充実のための研修の在り方

- 1 学校評価推進事業管理職研修会
- 2 学校関係者評価委員研修会
- 3 教務・研修主任研修会

V 学校運営の改善の成果の定量的な測定

- 1 保護者集団の構造把握
- 2 学校運営の改善の成果の検証
- 3 学校信頼につながる情報
- 4 成果と課題

VI 資料

- 保護者アンケート〔保護者集団構造分析モデル（P－TRUST2010）〕
- 四国中央市学校関係者評価シート



(参考) よりよい学校づくりのために—学校運営の改善の検証—

<http://ehime-c.esnet.ed.jp/gimu/hyouka/PDF/houkokuH22.pdf>